

正義を問う

今、野洲市は、(仮称)野洲市民病院を野洲駅前に建てる計画を進めています。

福祉の充実や、市民生活の基本として、公的病院が必要であることは承知しています。しかし、収支計算や、設備投資資金の面が、あまりに杜撰であり、このまま放置することは、プロ会計人としての正義に反すると思いました。

市の代表監査委員を、任期を残し辞職したのも、その意思表示のためです。

この度、山仲市長宛てに「公開質問状」を提出し、同時に記者会見をしました。

今回は「8項目」を挙げましたが、実はまだまだ指摘したい点があります。引き続き、提出する予定です。

今回提出した一例は、以下のようなものです。

総務省が発表した国勢調査でも、将来の野洲市の人口減は明確であるのに、市は「今後20年間人口が増加する推計」を前提に収支計算をしています。

そのことを、市民に公表しないのは、「不作為」あるいは、意図して隠していると言われても仕方ありません。

すべてを正確に正直に説明して、「収支は8年目に黒字化」は無理です。年間に数億円の市の予算からの補てんは仕方ありません、と説明すれば、私も納得します。

我々、経営者は、日々と真剣に経営に取り組んでいます。「社員を幸せにする」という、大目的の実現に向けて、少しでも多くのボーナスを支払いたい、喜んでもらいたい、笑顔が見たい、安心してもらいたいと願っています。

改めて、正義とは何か？人生とは何か？仕事とは何か？リーダーとは何か？を、自問自答する機会となりました。

前言を翻すことは、ややもすると、優柔不断と言われたいか、プライドを傷つけることにならないか、脅かされはしないか、と自己防衛が働きます。

しかし、本当に社員が幸せになるのか、将来に禍根を残さないか、心に問い一点の曇りもない判断をしたかという、「正義」に判断基準を置くべきです。

「組織のトップは、人格者でなければならない」という、先哲の教えが私の背中を押します、孔子・孟子・孫子・朱子達、大応援団の声が、私の魂に響いています。

こういう場面で、本当に学んでいて良かった！と実感します。

社長、「有利不利・損得」や安易な妥協、長いものに巻かれろ、寄らば大樹の陰ではなく、正しい判断・勇気ある判断・義のある判断・情ある判断のできる人物になりましょう。部下が観ています。天が観ています。地が観ています。



今月のポイント

「法に叶い、理に叶い、情に叶う」